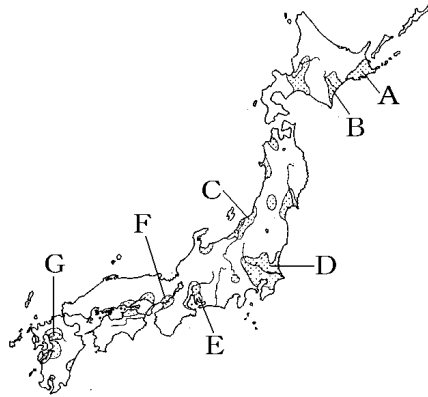


第 8 章	社会(地理)	名前:	日 付	No.02
	日本の自然			

[問題 1]

A～G の平野・台地の名前を次から選べ。

[筑紫平野 越後平野 根釧台地 関東平野 十勝平野 濃尾平野 仙台平野 富山平野 大阪平野]



[解答欄]

A 根釧台地	B 十勝平野	C 越後平野	D 関東平野
E 濃尾平野	F 大阪平野	G 筑紫平野	

[問題 2]

次の①～⑤の平野名を、下の[]からそれぞれ選べ。

- ① 日本でもっとも大きい平野。
- ② 中部地方でもっとも大きい平野。
- ③ 稲作がさかんな九州最大の平野。
- ④ りんごの栽培がさかんな平野。
- ⑤ 北海道で畑作の中心となっている平野。

[十勝平野 濃尾平野 越後平野 関東平野 筑紫平野 宮崎平野 石狩平野 讃岐平野 岡山平野 高知平野 仙台平野 津軽平野 大阪平野 富山平野]

[解答欄]

① 関東平野	② 濃尾平野	③ 筑紫平野	④ 津軽平野	⑤ 十勝平野
--------	--------	--------	--------	--------

[解説]

根釧台地：酪農がさかんな台地。

十勝平野：北海道で畑作の中心。

石狩平野：札幌がある平野で稲作。

津軽平野：りんごの栽培がさかん。

秋田平野：江戸時代からの米どころ。

仙台平野：東北一広い平野。

越後平野：信濃川流域の平野、穀倉地帯。

関東平野：日本でもっとも大きい平野。

濃尾平野：中部地方最大、下流に輪中。

筑紫平野：筑後川下流にできた九州最大の平野。

九州の米どころ。



[問題 3]

次の各問いに答えよ。

- (1) 日本の大部分は何という気候帯に属しているか。次の[]から選べ。

[温帯 乾燥帯 熱帯 寒帯]

- (2) 日本の気候の中で、冷帯になるのはどこか。次から選べ。

[瀬戸内 南西諸島 北海道 九州]

- (3) 日本の気候は、何の変化がはっきりしているか。

[解答欄]

(1) 温帯	(2) 北海道	(3) 季節の変化
--------	---------	-----------

[解説]

日本の大部分は温帯
(四季の変化がはっきりしている)
ただし、北海道→冷帯
沖縄→亜熱帯

日本の大部分は 5 つの気候帯(熱帯・乾燥帯・温帯・冷帯・寒帯)でいうと、**温帯に属している**。温帯の中でも、年間を通して降水量の多い温帯湿潤気候(温暖湿潤気候)である。**四季の変化がはっきりしている**ことが温帯の特徴であるが、日本では、夏と冬の気温の差が大きく、夏は熱帯のようになる一方で冬は寒さが厳しく、四季の変化が特にはっきりしている。

ただし、北海道の気候は**冷帯(亜寒帯)**、南西諸島の気候は**亜熱帯**(熱帯に近い温帯)である。

[問題 4]

次の各問いに答えよ。

- (1) 日本の気候に大きな影響を与えている、地図中の

A、B の風を何というか。

- (2) 冬の風向きを示しているのは A、B のどちらか。

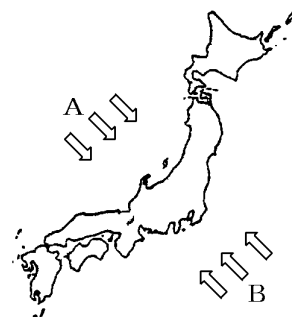
[解答欄]

(1) 季節風(モンスーン)	(2) A
----------------	-------

[解説]

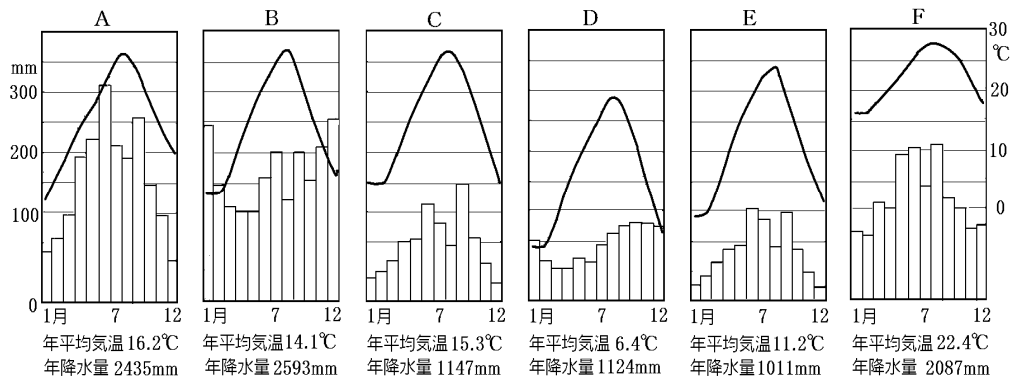
日本は、ユーラシア大陸の東側にあたり、太平洋に面しているため**季節風(モンスーン)**の影響を受ける。

日本では、夏と冬の気温の差が大きく、夏は熱帯のようになる一方で冬は寒さが厳しくなるが、これは季節によって風向きが変わる季節風が原因になっている。すなわち、夏には太平洋上で高温でしめった高気圧(小笠原気団)が発達し、この高気圧から吹き出した南東の季節風(図の B)によって、熱帯なみのむし暑い日が続く。これに対し、冬には、ユーラシア大陸に高気圧(シベリア気団)が発達していわゆる西高東低の気圧配置となるため、低温で乾燥した北西の季節風(図の A)が吹き、寒気が流れ込む。この北西の季節風は、**暖流の対馬海流**が流れる日本海の水蒸気を運んできて、**日本海側の地方に多量の雨や雪を降らせる**。

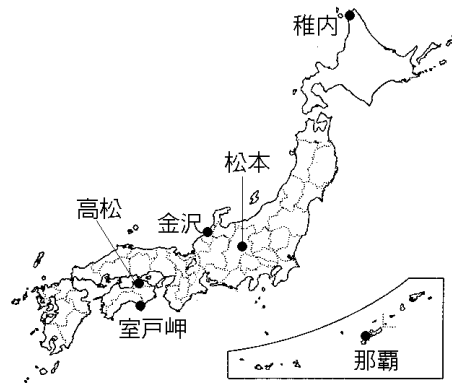


[問題 5]

次のグラフ、地図を見て、後の各問いに答えよ。



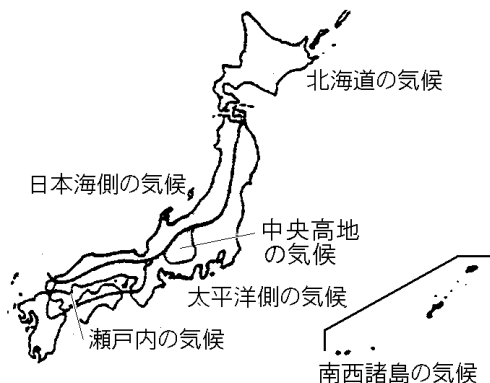
- 地図中の稚内のグラフを A～F から選べ。
- 稚内は次の[]のどの気候帯になるか。
[乾燥帯 熱帯 温帯 冷帯]
- 地図中の金沢と室戸岬のグラフをそれぞれ A～F から選べ。
- 金沢の降水量を示す棒グラフの形が室戸岬と大きく違う理由を簡単に書け。
- 地図中の那覇はどの気候区になるか。[]内から選べ。
[南西諸島の気候 瀬戸内の気候 中央高地の気候 北海道の気候]



[解答欄]

(1) D	(2) 冷帯	(3) 金沢 : B	室戸岬 : A
(4) 太平洋側では夏に降水量が多く、日本海側では冬に降水量が多いから。			(5) 南西諸島の気候

[解説]

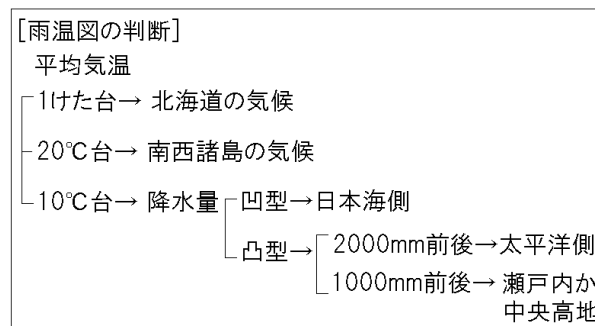
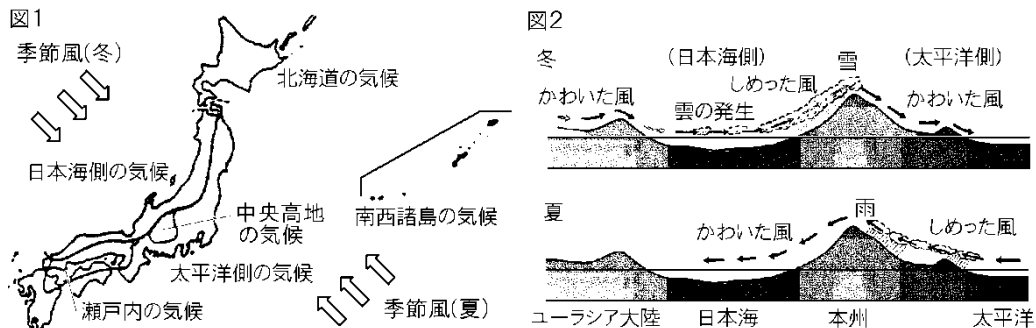


A～F の雨温図がどの気候区のものか考える。まず年間の平均気温に注目する。

平均気温が 6.4℃と 1 けた台である D は、冷帯である北海道の気候を表している。したがって、D は稚内のグラフである。平均気温が 22.4℃と 20℃台である F は、亜熱帯である南西諸島の気候を表している。したがって、F は沖縄県那覇のグラフとわかる。

年平均気温が 10℃台である残りの A、B、C、E は、太平洋側(室戸岬)、日本海側(金沢)、瀬戸内(高松)、中央高地(松本)のいずれかのグラフである。日本海側は、冬に降水量が多いので降水量のグラフが凹型になる。したがって、B が日本海側の金沢のグラフと判断できる。

残りの A、C、E のうち降水量が 2000mm をこえる A は太平洋側の室戸岬のグラフで、降水量が 1000mm 程度である C、E は瀬戸内(高松)か中央高地(松本)であると考えられる。瀬戸内(高松)と中央高地(松本)では瀬戸内の方が温暖であるので、C が瀬戸内の高松、E が中央高地の松本のグラフであると判断できる。

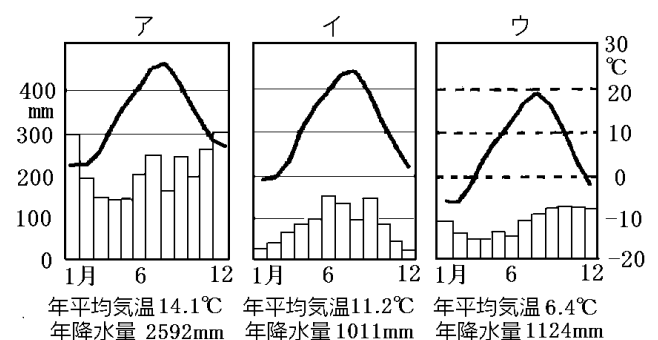
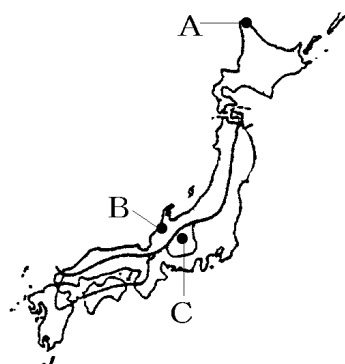


問題 6

地図中の A～C の都市の雨温図を、次のア～ウから 1 つずつ選んで、記号で答えよ。

解答欄

A	ウ
B	ア
C	イ



解説

A は北海道の気候で冷帯に属するので、年平均気温は 1 けた台である。したがって、雨温図はウである。B は日本海側の気候なので、冬に降水量が多いため、雨温図はアのような凹型になる。C は内陸の気候なので降水量は 1000mm 前後と少なく、気温は 10℃台である。したがって、雨温図はイである。